社会科学習　トラの巻㉛

ワークシートの作り方・使い方―その２―

～問いの作り方を含めて～

元全国中学校社会科教育研究会会長　赤坂 寅夫

【質問】ワークシートにおいて問いをどのように設定し、どのようにワークシートに落とし込むかを教えてください。

その一　問いの作り方

現行学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、１単位時間の授業においてよりも、単元など内容や時間のまとまりを見通した指導計画や評価計画が求められています。そのために単元の目標の達成に向けた**「単元を貫く問い」**を設定し、指導内容のつながり・構造から単元をどう構成するか、どのような学習活動を位置付け、どう評価するかという指導計画・評価計画の構想が重要であることを「地理学習　トラの巻㉒『問いのつくり方』」（当誌2020年度前期号）で示しました。また、前回の「社会科学習 トラの巻㉚『ワークシートの作り方・使い方』」においては、学習進度とレベルに合わせたワークシートを作り、スパイラルな成長を目指すことをポイントとして示しました。この学習進度とレベルに合わせたスパイラルな成長が単元の指導計画すなわち単元の構想に当たります。それでは単元の構想をどう考えるか。単元の構想からワークシートの作成へのステップを下記の**ア～ク**に示します。

ア　授業者自身が考える単元の目標を考える
イ　アをもとに「単元を貫く問い」を考える
ウ　目標の達成のための学習活動を構想する
エ　生徒の問題意識を喚起する教材を選ぶ
オ　生徒目線の「単元を貫く問い」を考える※
カ　「単元を貫く問い」を解決するための１単位時間の授業における問いと学習活動を構想する
キ　１単位時間の授業ごとのワークシートを作成する
ク　１単位時間の授業ごとのまとめ・振り返りを記録するワークシートを作成する

※本誌p.16～19「授業研究地理」での問いの事例も参照ください。

前述した学習進度とレベルに合わせたワークシートの作成に関して、「単元を貫く問い」と「授業時間ごとの問い」の関係について考えなければなりませんが、これについても「地理学習　トラの巻㉒『問いのつくり方』」（当誌2020年度前期号）で以下の問いの種類について解説していますので、参照ください。

・事実的知識を問う問い　・説明的知識を求める問い
・記述的知識を求める問い　・価値的知識を求める問い

「単元を貫く問い」に迫るための学習活動をどう展開するのか、そのための「授業時間ごとの問い」をどう設定し、ワークシートに落とし込み、主体的な活動をどう行うかが重要です。

ポイント❶
「単元を貫く問い」に迫るために、単元を構造的に構想する「授業時間ごとの問い」をワークシートに落とし込む

その二　問いの展開とワークシート

では、実際にどのように問いを展開しワークシートに落とし込めばよいのか、ここでは「九州地方」の学習での事例を紹介します。生徒の興味・関心や学習レディネスを把握した上で、授業者が考える単元の目標に迫る「単元を貫く問い」や「授業時間ごとの問い」を設定するのが基本ですが、ここでは教科書に設定された問いを基に解説します。『社会科 中学生の地理』（以下、教科書）p.174では「単元を貫く問い」

【単元を貫く問い】

第1節の問い p.171～183　九州地方の自然環境は，人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。　教科書p.174

〔第１時の問い〕―九州地方の自然環境―

学習課題　九州地方では，地形や気候にどのような特色がみられるのだろうか。　教科書p.174

〔第２時の問い〕―火山と共にある九州の人々の生活―

学習課題　火山は人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。　教科書p.176

〔第３時の問い〕―自然を生かした九州地方の農業―

学習課題　火山活動の影響を受けた土地や温暖な気候を生かして，九州地方ではどのような農業が行われているのだろうか。　教科書p.178

〔第４時の問い〕―都市や産業の発展と自然環境―

学習課題　アジアの国々に近いということが，都市や地域の産業の発展にどのような影響を与えているのだろうか。　教科書p.180

として「九州地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。」と設定されています。また、見開き２ページに１単位時間ごとの「学習課題」が示されています。

帝国書院の教科書では、上記のように「九州地方」の学習は「自然環境を中核とした考察の仕方」を基にして、地形や気候などの自然環境が人々の生活・文化や産業などとの深い関わりがあること、自然災害に応じた防災対策が地域の課題となっていることを中心に学習する単元としています。教科書p.178～179を活用した第３時の「自然を生かした九州地方の農業」を事例として展開してみましょう。

①事実的知識を問う問いと記述的知識を求める問い

ワークシートを活用した学習活動に慣れていない初歩の段階では、地理的用語の定着のために教科書本文を読み取らせ、いわゆる穴埋め式で語句を記入させる形式も考えられます。

しかし、地理的用語の理解・認識を深めるためには単なる語句の記入ではなく、教科書の写真や地図、グラフから地理的事象を読み取らせる問いと用語の概念を理解させる問いが必要です。

◆九州地方の南部にはどのような地形が広がっているか。教科書p.178[1]「シラス台地の斜面」の写真と[2]「シラスの分布」の地図から読み取りなさい（事実的知識を問う問い）。
→古い火山の噴出物が厚く積もって出来た台地（シラス台地）が広がっている。

◆教科書p.179[6]「筑紫平野での小麦の収穫」と「田植えされた水田」の２枚の写真を見て、筑紫平野ではどのような農業が行われているか、記述しなさい（記述的知識を求める問い）。
→冬でも温暖な気候を利用し、春から秋の稲作が終わった後の水田で小麦や大麦など米以外の作物を栽培する二毛作が行われている。

②説明的知識を求める問い

上記の①だけでは地理的な見方・考え方を働かせる学習にはなりません。社会科学習の本来の姿は見方・考え方を働かせて地理的事象の原因、要因、理由や他の事象との関連を考察する問いが必要です。例えば次のような問いです。

◆九州地方の南部ではさつまいもや茶などの栽培と畜産が盛んであるが、それはなぜか。地図帳や教科書の資料・本文から変化に着目して記述しなさい。
→水持ちが悪くやせた土地であったシラス台地では古くからさつまいもの栽培が行われ、やせた土地の肥料として糞を活用するため牛や豚が飼われていた。戦後、用水路が整備され、水はけのよい土地に適した茶の栽培、わが国の食文化の変化による豚や鶏、肉牛の生産が盛んになった。

③説明的知識を深める問い

②では教科書内にある地図や資料を活用した問いでしたが、教科書以外からの地図や資料を

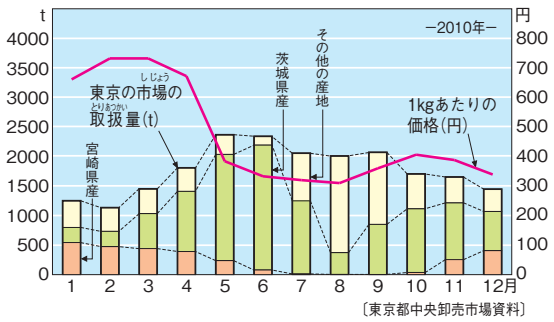

図　東京へ出荷されるピーマンの量と価格（帝国書院『新・日本のすがた①九州地方』）

活用して、②の問いに関連させてより深い説明的知識を求める問いのレベルを向上させる工夫が必要です。例えば九州地方の農業の特色を見いだす学習において、ピーマンの月別出荷量と価格の変化を示したグラフ（図）を活用して次のような問いが考えられます。

◆九州地方南部において促成栽培が盛んな理由をグラフから読み取り説明しなさい。
→冬の温暖な気候を利用して、他地域では出荷が少なく価格が高くなる時期に出荷することで収益を高めている。

この問いでは促成栽培のような冬でも温暖な気候を利用し、グラフに示された価格の変動から栽培が少ない冬の時期に出荷することで利益が得られるという地理的事象と経済活動との関わりを読み取ることを求めています。

このように１時間の授業の中で、１枚のワークシートに①から③への問いのステップを踏む工夫をすることにより、地理的な見方・考え方を働かせる活動ができます。

ポイント❷
ワークシートの中で「問い」のステップを工夫し、見方・考え方を働かせる

その三　単元の振り返りとワークシート

現行学習指導要領では「主体的に学習に取り組む態度」の評価が求められ、そのために１時間の授業ごとではなく、長いスパンでの生徒自身の粘り強い学習や自己調整力を評価することとされています。長いスパンとは１年間あるいは学期ごとが考えられますが、いくつかの単元の積み重ねであり、その意味で１つの単元において振り返りをすることが求められています。そのため時間ごとのワークシートのほかに、単元の学習を振り返るワークシートが必要です。

例えば本事例の九州地方の学習においては、各時の授業時間における問いに対する答えを各時の最後の学習活動として記入する時間を設定し、振り返り用のワークシートに記入します。そして単元の最後に各時の学習を振り返り、「単元を貫く問い」に対する答えを記入します。

【単元を貫く問い】
「九州地方の自然環境は、人々の生活や産業にどのような影響を与えているのだろうか。」

【単元を貫く問い】に対する答えの例
梅雨や台風による災害や九州南部での火山灰の影響は、人々の生活をおびやかす自然環境である一方で、火山による温泉や景観で観光客が多く訪れるという恵みもある。シラス台地での畜産、温暖な気候を活用した二毛作や促成栽培が盛んであるとともに、大陸に近いことが工業の発展やアジアの国々との交流に影響を与えている。

各時の答えの内容及び「単元を貫く問い」に対する答えの内容から、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の観点を評価します。上記の例は、九州地方の地形や気候の具体的事象が人々の生活や産業にどのような影響を与えているかを、地形・気候や産業の特色などについて具体例を示しながら自然環境と人々の生活・産業との関わりを簡潔に記述しており、「思考・判断・表現」の評価はＡ評価と判断できるでしょう。

ワークシートに記入された内容から「主体的に学習に取り組む態度」の観点を評価するためには、長いスパンでの学習活動が必要で、すべての単元で見取る必要はありません。１年・２年の学習において、２～３単元に絞って長いスパンで丁寧に活動し、じっくり振り返る時間と内容を工夫することが大切です。そのための問いと学習活動の工夫をしたワークシートが必要です。

ポイント❸
毎時間の振り返りから単元を貫く問いに対する答えを導くワークシートの工夫をする